

脚本・演出

征爾

Seiji Nozoe

演劇とは何か、を問い続け
世界を疾走するクリエイター



ノゾエ・せいじ ●脚本家・演出家・俳優・劇団「はえぎわ」主宰。1995年、青山学院大学在学中に演劇を始める。99年に劇団「はえぎわ」始動以降、全作品の作・演出を手掛ける。2012年、はえぎわ公演「〇〇アル風景」にて、第56回岸田國士戯曲賞受賞。約1,600人の高齢者が出演した大群集劇「1万人のゴールドシアター2016」のさいたまスーパーアリーナでの上演や、松尾スズキ原作の絵本を舞台化した「気づかいルーシー」など劇団外でも活躍。近年の主な演出作品に、「ガラハコスバコス〜進化してんのかしてないのか〜」、「マクベス」など。9月17日より「ボクの穴、彼の穴、W」、11月より「ロボット」の東京公演が控える。

演劇人・ノゾエ征爾ができるまで

8月10日に上演される音楽劇『死んだかいぞく』は、下田昌克さん作の絵本を題材に、劇団「はえぎわ」を主宰するノゾエ征爾さんが脚本・演出を手がけます。2017年に「気づかいルーシー」で福井に演劇旋風を巻き起こしたノゾエさんは、劇作家、演出家、また俳優として、これまで数々の舞台で注目されてきました。

「もともと子どもの頃から、お話を考えるのが好きでした。初めて演劇と出会ったのは大学1年生のとき。新入生歓迎公演というのが繁華街の雑居ビルの中にある小さな芝居小屋であって、最初から最後まで終始鳥肌が立ちっぱなしだったんです。これはヤバい、と感じて演劇研究会に入りました」

新人公演では自ら手を挙げて脚本を書き演出。そこからは授業そっちのけで芝居演じの日々を送り、当然大学は留年(！)。さらに大学の外の世界にも出てみたいと松尾スズキさんのゼミナールに参加し、大学内では劇団「はえぎわ」を旗揚げ、と、ご両親が期待していた「いい大学に入って、いい会社に就職する」という道とは完全に違った道を歩く演劇青年・ノゾエ征爾がで上がっていききました。

施設巡回公演で演劇への立ち位置が変わる

その後、経験を重ねながら徐々に地方からの依頼公演なども増えていったノゾエさん。そ

んな演劇人生の中で「大きな転機となった」と語るのが、2010年から始まった世田谷パブリックシアター主催の@（あつと）ホーム公演です。

「劇を運ぶ」というコンセプトで、高齢者施設や障がい者施設などを巡回するシリーズで、毎回、30分のオリジナル作品を上演します。施設のご利用者の方々に楽しんでいただく、というのが目的ですが、毎回「演劇って何なんだろう」という問いを突きつけられているようです。でも、初めはほんやりとみていた人が、そのうち笑い出したり、泣き出したりする瞬間があり、そのときに演劇っていいものなんだな、という実感が湧いてきたんです。それまで僕にとって演劇は、自分の表現欲求そのものだった。でも、そのとき、演劇というものに対する立ち位置が変わったんですね。このシリーズは現在も続いていますが、僕にとってはとても大切な場所になっています」

いい意味で不親切な舞台で想像力を刺激する

今回「ハーモニーホールふくい」で上演する『死んだかいぞく』は絵本が原作。絵本というヴィジュアル要素が重要なものを舞台化する際にはどんな工夫があるのでしょうか。

「僕は絵本を絶対的に信頼しているのですが、むしろ舞台は絵本に似せてもいいと思っっています。作品が気持ちよく進むためにはいい舞台装置を見つけたことがとても大事なので、原作者の下田さんとも何回も話し合いを重ねながら、観る人が想像するきっかけになるようなものを模索しています。こういう時代だからこそ、全部与えなくていい。いい意味で不親切でいいんだと思うんです」

舞台上には、ミュージシャン2名を含む8名のキャストが登場する予定。音楽を手がける田中馨さんはノゾエ作品には欠かせないメンバーです。

「僕の演劇作品にとって音楽は当然のようにあるもの。身体や台詞があるのと同じように

音楽がそこに息づいています。田中さんとは現場で、ここはどうしようかと話し合いながらつくっていくので、より自由度の高い面白いものができると思います」

バンド経験があるノゾエさんは、セリフを書きながらそれが自然に歌になっていくこともあるそう。音と言葉、そしてお芝居が融合するこの夏のノゾエ・ワールドが今から楽しみです。

構成・文／室田尚子
(音楽評論家)



2017年8月 ファミリーシアター「気づかいルーシー」 会場：ハーモニーホールふくい

8/10(土) 協賛: 株式会社タッセイ

音楽劇「死んだかいぞく」

●小ホール/開場 12:15 開演 13:00
●全席指定・車いす席 ¥4,000 (4歳～高校生 ¥1,000)
原作: 下田昌克 (ポプラ社の絵本「死んだかいぞく」より)
脚本・演出: ノゾエ征爾、音楽: 田中馨
美術・衣装・小道具デザイン: 下田昌克
出演: 山内圭哉、山下リオ、家納ジュンコ、竹口龍茶、熊谷拓明、片岡正二郎
ミュージシャン: 田中馨、東郷清丸

(企画制作: (公財)埼玉県芸術文化振興財団) ※詳細はP.6へ